

**経団連 カーボンニュートラル行動計画**  
**2021年度フォローアップ結果 個別業種編**

**2050年カーボンニュートラルに向けた製粉業界のビジョン（基本方針等）**

業界として2050年カーボンニュートラルに向けたビジョン（基本方針等）を策定しているか。

業界として策定している

**【ビジョン（基本方針等）の概要】**

〇〇年〇月策定

（将来像・目指す姿）

（将来像・目指す姿を実現するための道筋やマイルストーン）

業界として検討中  
（検討状況）

業界として今後検討予定  
（検討開始時期の目途）

会員会社22社へのアンケート結果から「検討中」は6社で、他16社は「検討予定なし」、「未回答」はであり、具体的な策定は出来ていないが、今後、業界として指針を検討していく。

今のところ、業界として検討予定はない  
（理由）

# 製粉業界のカーボンニュートラル行動計画（旧：低炭素社会実行計画）

## フェーズ I の総括

		計画の内容（上段）、結果・取組実績（下段）
1. 国内の事業活動における 2020 年の削減目標	目標水準	CO <sub>2</sub> 排出原単位 33.5Kg-CO <sub>2</sub> /t(1990 年度比 16.5%減) (前提条件) 2020 年度における電力の CO <sub>2</sub> 換算係数は、0.33kg-CO <sub>2</sub> /kWh
	目標達成率、削減量・削減率	CO <sub>2</sub> 排出原単位 41.8Kg-CO <sub>2</sub> /t 1990 年度比 16.4%増
	目標設定の根拠	・目標は小麦挽砕量と電力使用量が大きく影響するため、この 2 点を軸に、その他のエネルギーも勘案して CO <sub>2</sub> 排出量を算出した。 ・電力の CO <sub>2</sub> 換算係数(0.33kg-CO <sub>2</sub> /kWh、1.21 トン-C/万 kWh)が策定条件である。
	目標達成、未達の背景・要因	原発が稼働していて前提条件である CO <sub>2</sub> 換算係数 0.33kg-CO <sub>2</sub> /kWh、0.9t-C/万kWhが、2020 年度では 0.44kg-CO <sub>2</sub> /kWh、1.19t-C/万kWhとなったためです。
2. 主体間連携の強化 (低炭素の製品・サービスの普及を通じた 2020 年時点の削減)		特になし  特になし
3. 国際貢献の推進 (省エネ技術の普及などによる 2020 年時点の海外での削減)		特になし  特になし
4. 革新的技術の開発 (中長期の取組み)		特になし  特になし
5. その他フェーズ I 全体での取組・特記事項		特になし  特になし

**フェーズ I において開発や普及が進んだ主な製品・技術、  
および温室効果ガス排出削減に貢献した主な取組み**

	主な製品、技術、取組みの名称
1. 国内の事業活動における排出削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トップランナーモーターへの更新</li> <li>・省エネ型コンプレッサーへの更新</li> <li>・トップランナー変圧器への更新</li> <li>・高効率ファンへの更新</li> <li>・省エネ照明の導入</li> </ul>
2. 主体間連携の強化 (低炭素の製品・サービスの普及を通じた 2020 年時点の削減)	特になし
3. 国際貢献の推進 (省エネ技術の普及などによる 2020 年時点の海外での削減)	特になし
4. 革新的技術の開発 (中長期の取組み)	特になし
5. その他フェーズ I 全体での取組・特記事項	特になし

## 製粉業界のカーボンニュートラル行動計画フェーズⅡ

		計画の内容
1. 国内の事業活動における2030年の目標等	目標・行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 2030 年度目標</li> <li>・CO<sub>2</sub>排出原単位 37.7kg-CO<sub>2</sub>/トン(2013 年度比 32.1%減)。 注)原単位は、小麦挽砕量(トン)。</li> </ul>
	設定の根拠	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標の策定に当たって、小麦挽砕量と電力使用量が大きく影響するため、この2点を軸に、その他のエネルギーも勘案してCO<sub>2</sub>排出量を算出した。</li> <li>・製粉業界では原料使用シェアのおよそ90%を占める協会会員24社(目標設定時の会員社数)にアンケートを実施(回答率100%)。この結果と2001～2015年度実績を参考にして、小麦挽砕量と電力使用量を推定した。</li> <li>・電力のCO<sub>2</sub>換算係数(0.37kg-CO<sub>2</sub>/kWh、1.009トン-C/万kWh)が策定条件である。</li> </ul>
2. 主体間連携の強化 (低炭素・脱炭素の製品・サービスの普及や従業員に対する啓発等を通じた取組みの内容、2030年時点の削減ポテンシャル)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・トッランナーモーター、トッランナーランス及び高効率ファンへの更新。</li> <li>・省エネ型コンプレッサーへの更新及び圧力設定の管理。</li> <li>・省エネ照明及び人感センサーの導入。</li> <li>・省エネ型空調設備への更新及び設定温度の管理。</li> <li>・今後、約10年間に出現する省エネ設備、省エネシステム等の積極的な導入。</li> </ul>
3. 国際貢献の推進 (省エネ技術・脱炭素技術の海外普及等を通じた2030年時点の取組み内容、海外での削減ポテンシャル)		特になし
4. 2050年カーボンニュートラルに向けた革新的技術の開発 (含 トランジション技術)		特になし
5. その他の取組・特記事項		特になし

# 小麦粉製造業における地球温暖化対策の取組み

2021年9月10日  
製粉協会

## I. 小麦粉製造業の概要

### (1) 主な事業

主として小麦粉を製造する事業。標準産業分類コード 0962

### (2) 業界全体に占めるカバー率

業界全体の規模		業界団体の規模		低炭素社会実行計画参加規模	
企業数	80社※	団体加盟企業数	22社	計画参加企業数	22社 (100%)
市場規模	売上高 4,600億円	団体企業売上規模	売上高 4,206億円	参加企業売上規模	売上高 4,206億円 (100%)
エネルギー消費量	推定 14万kl	団体加盟企業エネルギー消費量	13万kl	計画参加企業エネルギー消費量	13万kl (100%)

※2017年度推定値（フォローアップ調査時）

### (3) データについて

#### 【データの算出方法（積み上げまたは推計など）】

会員企業へのアンケート結果を参考に算出。

#### 【生産活動量を表す指標の名称、それを採用する理由】

生産活動量を表す指標の名称は、挽砕量。

小麦粉製造業のエネルギー消費量は原料小麦の使用量（挽砕量）と強い相関があるため。

#### 【業界間バウンダリーの調整状況】

##### ■ バウンダリーの調整は行っていない

(理由)小麦粉を製造する業種は他に無いため。

##### □ バウンダリーの調整を実施している

<バウンダリーの調整の実施状況>

#### 【その他特記事項】

特になし

## II. 国内の事業活動における排出削減

### (1) 実績の総括表

#### 【総括表】

	基準年度 (2013年度)	2019年度 実績	2020年度 見通し	2020年度 実績	2020年度 目標	2030年度 目標
生産活動量 (単位:t)	5,492,462	5,494,545	5,562,198	5,363,645	—	5,507,190
エネルギー 消費量 (単位: 原油換算kl)	131,320	124,604	125,856	122,225	—	—
電力消費量 (億kWh)	5.2	5.0	5.0	4.9	—	5.1
CO <sub>2</sub> 排出量 (万t-CO <sub>2</sub> )	30.5 ※1	23.2 ※2	23.5 ※3	22.4 ※4	— ※5	— ※6
エネルギー 原単位 (単位:l/t)	23.9	22.7	22.7	22.7	—	—
CO <sub>2</sub> 原単位 (単位: kg-CO <sub>2</sub> /t)	55.5	42.2	42.2	41.8	—	37.7

#### 【電力排出係数】

	※1	※2	※3	※4	※5	※6
排出係数[kg-CO <sub>2</sub> /kWh]	0.567	0.444	0.444	0.436	—	—
基礎排出/調整後/その他	実排出	実排出	2019年 度転用	実排出	—	実排出
年度	2013	2019	2020	2020	—	2030
発電端/受電端	受電端	受電端	受電端	受電端	—	受電端

(2) 2020年度における実績概要

【目標に対する実績】

<フェーズ I (2020年)目標>

目標指標	基準年度/BAU	目標水準	2020年度目標値
CO <sub>2</sub> 排出量原単位 (kg-CO <sub>2</sub> /トン)	—	—	—

実績値			目標達成状況		
基準年度実績 (BAU目標水準)	2019年度 実績	2020年度 実績	基準年度比 /BAU目標比	2019年度比	達成率*
—	—	—	—	—	—

\* 達成率の計算式は以下のとおり。

$$\text{達成率【基準年度目標】} = (\text{基準年度の実績水準} - \text{当年度の実績水準}) / (\text{基準年度の実績水準} - \text{2020年度の目標水準}) \times 100(\%)$$

$$\text{達成率【BAU目標】} = (\text{当年度のBAU} - \text{当年度の実績水準}) / (\text{2020年度の目標水準}) \times 100(\%)$$

<フェーズ II (2030年)目標>

目標指標	基準年度/BAU	目標水準	2030年度目標値
CO <sub>2</sub> 排出量原単位 (kg-CO <sub>2</sub> /トン)	2013	▲32.1%	37.7

実績値			進捗状況		
基準年度実績 (BAU目標水準)	2019年度 実績	2020年度 実績	基準年度比 /BAU目標比	2019年度比	進捗率*
55.5	42.2	41.8	▲24.7 %	▲0.9 %	77.0%

\* 進捗率の計算式は以下のとおり。

$$\text{進捗率【基準年度目標】} = (\text{基準年度の実績水準} - \text{当年度の実績水準}) / (\text{基準年度の実績水準} - \text{2030年度の目標水準}) \times 100(\%)$$

$$\text{進捗率【BAU目標】} = (\text{当年度のBAU} - \text{当年度の実績水準}) / (\text{2030年度の目標水準}) \times 100(\%)$$

【調整後排出係数を用いた CO<sub>2</sub>排出量実績】

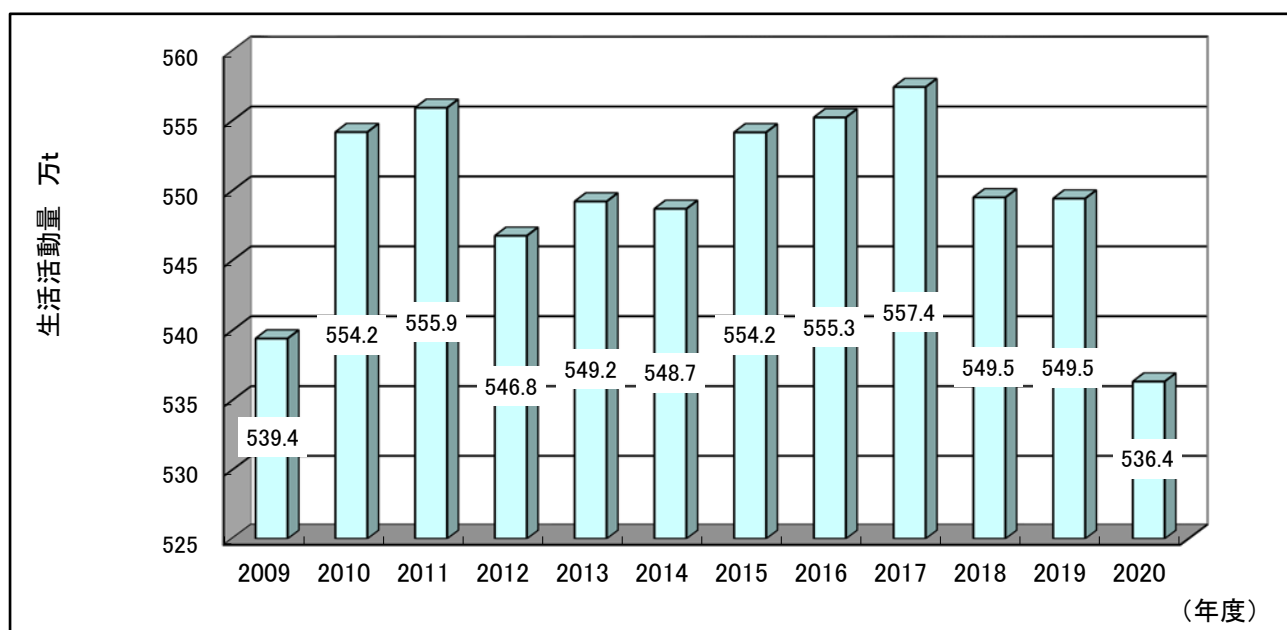
	2020年度実績	基準年度比	2019年度比
CO <sub>2</sub> 排出量			

(3) BAT、ベストプラクティスの導入進捗状況

BAT・ベストプラクティス等	導入状況・普及率等	導入・普及に向けた課題
	2020年度 ○○% 2030年度 ○○%	
	2020年度 ○○% 2030年度 ○○%	
	2020年度 ○○% 2030年度 ○○%	



(4) 生産活動量、エネルギー消費量・原単位、CO<sub>2</sub>排出量・原単位の実績



2020年度の生産活動量は、コロナ感染の影響から外食産業の消費落ち込みにより、2019年度と比べると13.1万tの減少となった。

【要因分析】

(CO<sub>2</sub>排出量)

要因	1990年度 ➢ 2020年度	2005年度 ➢ 2020年度	2013年度 ➢ 2020年度	前年度 ➢ 2020年度
経済活動量の変化	12.9%	-2.4%	-2.4%	-2.4%
CO <sub>2</sub> 排出係数の変化	14.2%	4.8%	-23.6%	-1.4%
経済活動量あたりのエネルギー使用量の変化	-9.9%	-6.8%	-4.8%	0.5%
CO <sub>2</sub> 排出量の変化	17.2%	-4.4%	-30.8%	-3.4%

(%)

(要因分析の説明)

経済活動量の変化は日本における1人当たりの小麦粉消費量が約32kg/年と横這いで推移していることに対し、日本総人口が1990年から2008年をピークに350万人増加に伴い、経済活動量も増加した。しかし近年では人口の減少もあり、ほぼ横這いである。

CO<sub>2</sub>排出係数の変化は、2011年に発生した東日本大震災による原子力発電所が停止したことにより、1990年度および2005年度との対比では増加であったが、近年においては再生可能エネルギーの導入拡大により、CO<sub>2</sub>排出係数は減少傾向になっている。

経済活動量あたりのエネルギー使用量の変化は省エネ機器の導入や工場の省力化が進み、経済活動量あたりのエネルギー使用量は減少している。近年では省エネ機器の導入が一段落し、減少幅は鈍化している。

CO<sub>2</sub>排出量の変化は小麦粉製造業においてエネルギー消費の約9割は電気エネルギーであるため、CO<sub>2</sub>排出係数は電気事業連合会発表の数値となり、電力供給事情によって変化をしている。

(5) 実施した対策、投資額と削減効果の考察

【総括表】

年度	対策	投資額 (千円)	年度当たりの エネルギー削減量 (kWh)	設備等の使用期間 (見込み)
2020 年度	トッランナーモーターに更新	39,804	48,105	10 年
	省エネ型コンプレッサーに更新	69,136	110,151	
	トッランナー変圧器に更新	41,748	24,103	
	高効率ファンに更新	58,918	198,000	
	省エネ照明の導入	82,733	215,247	
	その他	6,600	2,000	
2021 年度 以降	トッランナーモーターに更新	57,860	141,640	10 年
	省エネ型コンプレッサーに更新	42,000	148,161	
	トッランナー変圧器に更新	306,000	276,100	
	高効率ファンに更新	23,700	394,000	
	省エネ照明の導入	62,440	217,274	
	その他	13,000	850	

【2020 年度の実績】

(取組の具体的事例)

工場の消費電力を効率化する為、トッランナーモーター及び変圧器への更新を進めた。また、省エネ照明の導入を進め、CO<sub>2</sub>排出量を削減した。

(取組実績の考察)

【フェーズ I 全体での取組実績】

(取組の主な事例)

工場の消費電力を効率化する為、トッランナーモーター及び変圧器への更新を進めた。また、省エネ照明の導入を進め、CO<sub>2</sub>排出量を削減した。

(取組実績の考察)

【2021 年度以降の取組予定】

(今後の対策の実施見通しと想定される不確定要素)

今後も継続的に排出削減を目指した投資を進めていく予定である。

## (6) 2020年度の目標達成率

### 【目標指標に関する達成率の算出】

\* 達成率の計算式は以下のとおり。

$$\text{達成率【基準年度目標】} = (\text{基準年度の実績水準} - \text{当年度の実績水準}) / (\text{基準年度の実績水準} - \text{2020年度の目標水準}) \times 100(\%)$$

$$\text{達成率【BAU目標】} = (\text{当年度のBAU} - \text{当年度の実績水準}) / (\text{2020年度の目標水準}) \times 100(\%)$$

$$\begin{aligned} & (\text{2013年度CO}_2\text{排出原単位} - \text{2020年度CO}_2\text{排出原単位}) \\ & \div (\text{2013年度CO}_2\text{排出原単位} - \text{2020年度CO}_2\text{排出原単位}) \times 100 \\ & = (55.5 - 41.8) \div (55.5 - 33.5) \times 100 = 62.3(\%) \end{aligned}$$

### 【自己評価・分析】（2段階で選択）

<自己評価とその説明>

目標達成

(目標達成できた要因)

(新型コロナウイルスの影響)

(クレジットの取得・活用の有無、活用内容)

取得クレジットの種別	
プロジェクトの概要	
クレジットの活用実績	

(達成率が2020年度目標を大幅に上回った場合、目標設定方法の妥当性に対する分析)

#### ■ 目標未達

(目標未達の要因)

2020年度目標は、CO<sub>2</sub>排出係数を0.33kg-CO<sub>2</sub>とした場合、CO<sub>2</sub>排出原単位で33.5kg-CO<sub>2</sub>/tであり、このCO<sub>2</sub>排出係数を用いた場合は32.4kg-CO<sub>2</sub>/t目標を達成していた。しかし、今回採用したCO<sub>2</sub>排出係数が0.44kg-CO<sub>2</sub>であったため目標未達となった。

(新型コロナウイルスの影響)

影響なし

(クレジットの取得・活用の有無、活用内容)

特になし

取得クレジットの種別	
プロジェクトの概要	
クレジットの活用実績	

(フェーズⅡにおける対応策)

## (7) 2030年度の目標達成の蓋然性

### 【目標指標に関する進捗率の算出】

\* 進捗率の計算式は以下のとおり。

$$\text{進捗率【基準年度目標】} = (\text{基準年度の実績水準} - \text{当年度の実績水準}) \\ \div (\text{基準年度の実績水準} - \text{2030年度の目標水準}) \times 100(\%)$$

$$\text{進捗率【BAU目標】} = (\text{当年度のBAU} - \text{当年度の実績水準}) \div (\text{2030年度の目標水準}) \times 100(\%)$$

$$\begin{aligned} & (\text{2013年度CO}_2\text{排出原単位} - \text{2030年度CO}_2\text{排出原単位}) \\ & \div (\text{2013年度CO}_2\text{排出原単位} - \text{2030年度CO}_2\text{排出原単位}) \times 100 \\ & = (55.5 - 41.8) \div (55.5 - 37.7) \times 100 = 77.0(\%) \end{aligned}$$

### 【自己評価・分析】

#### (目標達成に向けた不確定要素)

製粉業界のエネルギー消費量は消費電力量がその約90%を占めるため、電力の換算係数より排出するCO<sub>2</sub>量は大きく影響を受ける。2030年度目標は電力の換算係数を0.37kg-CO<sub>2</sub>/kwhで目標を算定しているため、この数値は目標達成のための不確定要素である。

#### (既に進捗率が2030年度目標を上回っている場合、目標見直しの検討状況)

該当しない

(8) クレジットの取得・活用及び創出の実績・予定と具体的事例

【業界としての取組】

- クレジットの取得・活用をおこなっている
- 今後、様々なメリットを勘案してクレジットの取得・活用を検討する
- 目標達成が困難な状況となった場合は、クレジットの取得・活用を検討する
- クレジットの取得・活用は考えていない
- 商品の販売等を通じたクレジット創出の取組を検討する
- 商品の販売等を通じたクレジット創出の取組は考えていない

【活用実績】

フェーズⅠ

2 (6) 「2020年度の目標達成率」の該当箇所に記入

フェーズⅡ

下記の「具体的な取組事例」に記入

【個社の取組】

- 各社でクレジットの取得・活用をおこなっている
- 各社ともクレジットの取得・活用をしていない
- 各社で自社商品の販売等を通じたクレジット創出の取組をおこなっている
- 各社とも自社商品の販売等を通じたクレジット創出の取組をしていない

【具体的な取組事例】

取得クレジットの種別	
プロジェクトの概要	
クレジットの活用実績	

創出クレジットの種別	
プロジェクトの概要	

(9) 本社等オフィスにおける取組

【本社等オフィスにおける排出削減目標】

業界として目標を策定している

削減目標:〇〇年〇月策定  
 【目標】  
  
 【対象としている事業領域】

■ 業界としての目標策定には至っていない

(理由)

全体の排出量に対する割合が僅かなため

【エネルギー消費量、CO<sub>2</sub>排出量等の実績】

本社オフィス等の CO<sub>2</sub>排出実績(〇〇社計)

	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
延べ床面積 (万㎡):	2.5	2.7	2.7	2.7	2.4	2.4	2.4	2.5	2.5	2.8	2.8	2.7
CO <sub>2</sub> 排出量 (万 t-CO <sub>2</sub> )	0.1	0.1	0.2	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
床面積あたりの CO <sub>2</sub> 排出量 (kg-CO <sub>2</sub> /m <sup>2</sup> )	53.9	53.2	62.8	68.7	70.9	59.0	50.5	47.9	47.3	39.7	37.9	29.7
エネルギー消費量 (原油換算) (万 kl)	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
床面積あたりエネ ルギー消費量 (l/m <sup>2</sup> )	32.4	32.0	30.6	30.0	30.6	26.1	23.1	22.6	23.3	20.8	20.7	23.8

■ II.(2)に記載の CO<sub>2</sub>排出量等の実績と重複

データ収集が困難

(課題及び今後の取組方針)



**【2020 年度の取組実績】**

**（取組の具体的事例）**

業界として取り組んでないが、各社がオフィス部門のエネルギー消費量削減に取り組んでいる。

**（取組実績の考察）**

(10) 物流における取組

【物流における排出削減目標】

業界として目標を策定している

削減目標:〇〇年〇月策定

【目標】

【対象としている事業領域】

■ 業界としての目標策定には至っていない

(理由)

対象となる会社が僅かなため

【エネルギー消費量、CO<sub>2</sub>排出量等の実績】

	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
輸送量 (万トンキロ)												
CO <sub>2</sub> 排出量 (万 t-CO <sub>2</sub> )												
輸送量あたり CO <sub>2</sub> 排出量 (kg-CO <sub>2</sub> /トンキロ)												
エネルギー消費 量(原油換算) (万 kl)												
輸送量あたりエネ ルギー消費量 (l/トンキロ)												

II.(1)に記載のCO<sub>2</sub>排出量等の実績と重複

■ データ収集が困難

(課題及び今後の取組方針)

外部委託等により、搬送量しか把握できないため。

**【2020 年度の実績】**

荷主として、外部委託業者には以下の項目を要望している。

(取組の具体的事例)

- 船舶・鉄道輸送へのモーダルシフト推進 (RORO船・フェリー等の内航船の活用推進)
- デジタコ・ドラレコを活用したエコドライブ、エコタイヤ推進による燃費向上 (タンクローリー対象)

(取組実績の考察)

### III. 主体間連携の強化

(1) 低炭素、脱炭素の製品・サービス等の概要、削減見込量及び算定根拠

	低炭素、脱炭素の 製品・サービス等	削減実績 (推計) (2020年度)	削減見込量 (ポテンシャル) (2030年度)
1			
2			
3			

(当該製品等の特徴、従来品等との差異、及び削減見込み量の算定根拠や算定の対象としたバリューチェーン／サプライチェーンの領域)

(2) 2020年度の取組実績

(取組の具体的事例)

特に実施していない。

(取組実績の考察)

(3) 家庭部門、国民運動への取組み

【家庭部門での取組】

特に実施していない

【国民運動への取組】

特に実施していない

(4) 森林吸収源の育成・保全に関する取組み

特に実施していない

(5) フェーズ I 全体での取組実績

(取組の主な事例)

特に実施していない

(取組実績の考察)

(6) 2021年度以降の取組予定

(2030年に向けた取組)

特に実施していない

(2050年カーボンニュートラルの実現・トランジションの推進に向けた取組)

特に実施していない

#### IV. 国際貢献の推進

(1) 海外での削減貢献の概要、削減見込量及び算定根拠

	海外での削減貢献	削減実績 (推計) (2020年度)	削減見込量 (ポテンシャル) (2030年度)
1			
2			
3			

(削減貢献の概要、削減貢献量の算定根拠)

特記事項なし

(2) 2020年度の取組実績

(取組の具体的事例)

特に実施していない

(取組実績の考察)

(3) フェーズ I 全体での取組実績

(取組の主な事例)

特に実施していない

(取組実績の考察)

(4) 2021年度以降の取組予定

(2030年に向けた取組)

特に予定はない

(2050年カーボンニュートラルの実現・トランジションの推進に向けた取組)

特に実施していない

(5) エネルギー効率の国際比較

特に実施していない

## V. 2050年カーボンニュートラルに向けた革新的技術(\*)の開発

\*トランジション技術を含む

(1) 革新的技術(原料、製造、製品・サービス等)の概要、導入時期、削減見込量及び算定根拠

	革新的技術	導入時期	削減見込量
1			
2			
3			

(技術の概要・算定根拠)

特記事項なし

(2) 革新的技術(原料、製造、製品・サービス等)の開発、国内外への導入のロードマップ

	革新的技術	2020	2025	2030	2050
1					
2					
3					

(3) 2020年度の実績

(取組の具体的事例)

特に実施していない

(取組実績の考察)



(4) フェーズ I 全体での取組進捗状況

(主な取組の進捗状況)

特になし

(取組の進捗状況の考察)

(5) 2021 年度以降の取組予定

(2030 年に向けた取組)

特に予定なし

(2050 年カーボンニュートラルの実現・トランジションの推進に向けた取組)

特に実施していない

## VI. その他

(1) CO<sub>2</sub>以外の温室効果ガス排出抑制への取組み

### 【2020年度】

フロン排出抑制法に準じて実施。

### 【フェーズ I 全体】

フロン排出抑制法に準じて実施。

## VII. 国内の事業活動におけるフェーズⅠ、フェーズⅡの削減目標

### 【削減目標】

<フェーズⅠ（2020年）>（2012年2月）

- ・根拠となる電力のCO<sub>2</sub>換算係数が未提示のため、未策定。

<フェーズⅡ（2030年）>（2016年12月策定）

- ・CO<sub>2</sub>排出原単位37.7kg-CO<sub>2</sub>/t（2013年度比32.1%減）。注）原単位は小麦挽砕量（トン）

### 【目標の変更履歴】

<フェーズⅠ（2020年）>（2016年6月策定）

- ・CO<sub>2</sub>排出原単位33.5kg-CO<sub>2</sub>/t（1990年度比16.5%減）。注）原単位は小麦挽砕量（トン）

<フェーズⅡ（2030年）>

なし

### 【その他】

#### （1） 目標策定の背景

製粉業界において消費エネルギーに対する電力の占める割合が約90%と大きいため、電力のCO<sub>2</sub>換算係数が非常に重要である。フェーズⅠ2012年2月策定時は、根拠となる電力のCO<sub>2</sub>排出係数が未提示のため、未策定。しかし、2016年6月にCO<sub>2</sub>排出係数が提示されたため、CO<sub>2</sub>排出原単位33.5kg-CO<sub>2</sub>/tの目標設定に至った。

フェーズⅡは、2016年12月に最初から2030年における電力排出係数が提示されていたため目標設定した。

#### （2） 前提条件

フェーズⅡ（2030年）において

- ・2030年度における電力排出係数が0.37kg-CO<sub>2</sub>/kWh、1.009t-C万kWhであること。
- ・原料（小麦）買受数量90%のシェアを持つ協会会員24社（目標設定時）に実施したアンケート結果と2001～2015年度実績を参考にした。

### 【対象とする事業領域】

製粉業

### 【2030年の生産活動量の見通し及び設定根拠】

#### <生産活動量の見通し>

フェーズⅡ（2030年）において

原料（小麦）買受数量90%のシェアを持つ協会会員24社（目標設定時）に実施したアンケート結果、2001～2015年度実勢をベースに2030年を推定した。

#### <設定根拠、資料の出所等>

製粉業の原料（小麦）買受数量90%のシェアを持つ協会会員24社（目標設定時）に実施したアンケート結果、2001～2015年度実績、出荷先ユーザーの業界動向等。

## 【その他特記事項】

### （3） 目標指標選択、目標水準設定の理由とその妥当性

#### 【目標指標の選択理由】

当業界のCO<sub>2</sub>排出量は、原料小麦使用料の増減に大きく左右される。原料小麦の使用量は正確に把握できるため、CO<sub>2</sub>排出原単位（小麦挽砕1トン当たりのCO<sub>2</sub>排出量）を目標指標として採用することとした。

#### 【目標水準の設定の理由、2030年政府目標に貢献するに当たり自ら行いうる最大限の水準であることの説明】

目標水準については製粉協会加盟会社の省エネ活動、実績データと主エネルギーである電力の原単位が改善されることをもとに設定した。

#### <選択肢>

- 過去のトレンド等に関する定量評価(設備導入率の経年的推移等)
- 絶対量/原単位の推移等に関する見通しの説明
- 政策目標への準拠(例:省エネ法 1%の水準、省エネベンチマークの水準)
- 国際的に最高水準であること
- BAU の設定方法の詳細説明
- その他

#### <2030年政府目標に貢献するに当たり最大限の水準であることの説明>

#### 【BAUの定義】 ※BAU目標の場合

##### <BAUの算定方法>

##### <BAU水準の妥当性>

##### <BAUの算定に用いた資料等の出所>